

カンキツ大苗を1年間で育成する 技術を開発しました

背景

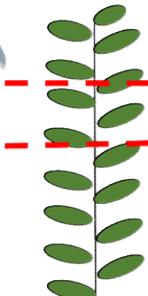
カンキツ大苗は定植後の生育が良好なため、生産者からの引き合いは強いものの、育成期間に通常2年※を要し、供給面が課題となっていました。

成果の 内容

春枝の弱摘心とBA液剤散布を組み合わせることで、大苗の育成期間を従来の2年から1年※に短縮しました。

※苗の育成期間は、台木に穂木を接ぎ木後よりカウント。

BA液剤散布による夏枝発生数(宮川早生)



弱摘心：展葉12枚
(一年生大苗)

強摘心：展葉8枚
(慣行栽培)

夏枝発生数 (本)
弱摘心+BA液剤散布 10.8
強摘心(慣行栽培) 2.8

春枝の弱摘心とBA液剤を散布することで夏枝を多く発生させることが可能



左:1年生大苗(本技術)、右:慣行の1年生苗



枝数と根量の両方が多い
(左4本が本技術の1年生大苗)

【研究チームのコメント】

- 1年生大苗は、慣行の大苗(2年生苗)と同様に慣行1年生苗よりも定植後の生育が優れることを確認しています。
- 大苗の不足が解消し、カンキツの新植や改植がより進むことを期待しています。

(苗木・花き部 苗木チーム)